

# Plan Do See

## 「人間らしさとは」

朝日中学校 校長 吉田 尚史

人間は生まれる前からあらゆるものの影響の下で、生まれた後も様々なものの影響を受けて成長すると言われていました。ひところ、オオカミに育てられた少女の話もありました。真偽のほうははっきりしませんが、幼少期に受ける影響の代表例として話題を博しました。また、人間自身で作ったものが、非人間的な性質をもつものが多いため、その影響を受けていることも多々あります。例えばセロテープの発達は「破る」文化を定着させましたし、電車に乗ってデジタル音楽再生機のヘッドホンで耳をふさぐことは、周囲への配慮の欠如を招いたとも言われています。



京都大学総長の山極寿一先生は、類人猿の行動や生態を通して、人間とは何かを探る研究をされています。人間は、まだ生物学的にはチンパンジーやゴリラと同属であることから、チンパンジーやゴリラを探ることで、「人間らしさ」、「人間の社会とは何か」が見えてくると著述されています。先生によると、人間社会の特徴は、「家族」と「共同体」に所属し、それを両立して暮らしてきたということです。この二つの集団を上手に使いながら進化してきた点が、他の動物と人間を分ける最大の特徴であると結論付けています。

家族は先ず身内を一番に考える集団であり、多くを犠牲にし、見返りを期待せずに奉仕する場です。人間は自分を最優先してくれる家族に守られることで、他者に共感し、誰かに何かをしてあげたいという気持ちが育つものです。一方、共同体という場は、何かを誰かにしてもらったら必ずお返しすることがルールです。

家族の中で自分が愛され、大事にされたことが基盤となって、他者に共感し、分かち合い、共に生きていける社会を作り出してきたのです。

しかし、人間が作った非人間的な性質を帯びた様々な品々、加えて家族機能の崩壊が徐々に進み、今の人間社会が個人の利益と効率性を優先するサル社会に近づいていることに危惧をいただいています。家族の機能が弱体化すれば、共同体機能も自ずと弱体化することに疑う余地はありません。それは、人間社会の危機とも言えます。昨今の凶悪な犯罪が頻発する背景に、「人間らしさ」の喪失があるように感じられてなりません。

「人間らしさ」を取り戻すために、目の前の子供達に無償の愛を注ぎ続けるとともに、学校という小さな社会の中で、「共同体」をしっかり意識させ、友達の気持ちを汲み取ることができる人間、できることをしてあげたいと願う人間を育てなければなりません。

「人間は、人間であることを人間から学びつつ人間になっていく」ことを決して忘れず、「人間らしさ」を問い教え、共に生きる喜びを十分味わわせたいものです。

## ともにがんばりましょう

～今年度朝日町の学校に赴任されたみなさん

### 「朝日町の学校に赴任して」

あさひ野小学校 大野 晴美

9年ぶりの朝日町で迎えた秋季大運動会。「組み立て」は、数人でのダンスから始まり、やがて、みんなで踊る“ランニングマン”。新しい風を感じました。そして、倒立。全員が横一線に倒立した姿に、自分がさみさと小学校にいた頃の「組み立て」を思い出しました。

一番大切にしたことは「みんなで成し遂げる」ことでした。私たち6年担任3人は、全員の倒立成功を悲願とし、子供たちに語りかけ続けました。そして本番。倒立を成功させていく子供たちに拍手が沸く中、担任は、なかなかできない子供をフィールドの外から見つめ続け、見事全員の倒立が揃った時、初めて拍手しました。心が震えました。今年の運動会。倒立ができない子供のことを何より気にかけて、個人練習に寄り添い、ぎりぎりまで構成を練り直す先生方の姿に、私は何度も出会いました。運動会后、先生方の一番の話題は、大喝采を受けたタワーではなく、全員が倒立できたことでした。



「組み立て」に新しい演目が加わろうと、学校が変わろうと、一人一人の子供を思う教師のまなざしは変わっていないと強く感じた運動会でした。

朝日町で再び仕事ができる喜びをかみしめています。どうぞよろしくお願ひします。



### 「半年が過ぎて」

朝日中学校 米田 歩

10月24日の合唱コンクールに向けての練習が始まりました。各クラス、熱心に練習に取り組んでおり、放課後は校舎に歌声があふれています。私が担当する一年生も、リーダーを中心に一生懸命練習しています。変声中の男子は思うように歌えず、もどかしい思いもしているようですが、皆で懸命に声を出す横顔を見ると、入学してからの成長を実感することができ、思わず笑顔がこぼれます。

少し大きめの制服に身を包み、ドキドキしながら門をくぐったこの一年生と一緒に、私も朝日中学校に赴任しました。私もドキドキしながら懸命に過ごしてきた半年だったような気がします。初めての朝日町、初めての学年主任、初めてのバスケットボール部顧問…。勝手が分からず、戸惑ったりできなかったりすることも多々ありました。そのたびに周りの先生方に助けられ、生徒に励まされてきました。気が付けば、職員室にも教室にも自分の居場所を見付けることができたような気がします。

キラキラした瞳で合唱する生徒の横顔を見ながら、皆、自分の居場所を見付けているだろうか、自分の良さや友達の良さを見付け、笑顔で過ごしているだろうか、と考えています。一人一人が自信をもって自分らしさを発揮し、合唱のように美しいハーモニーを作ることができるように、私も一緒に頑張っていきたいと思います。



### おしらせ

『内外教育』に平成22年7月2日号から234回に渡り連載されている「モンスターペアレント論を超えて」が全編読めます。第234回の『「受け止める」と「受け入れる」は別』は初期の保護者対応のまずさが、暴行、傷害、恐喝にまで至った悲惨な例を挙げている。間違った言説や未熟な経験則（文化？）で対応してはいけないことを戒めている。このほかにも喫緊の教育課題に対応できる資料・雑誌があるので、問い合わせてください。

## 「そのままと変わるもの」

朝日中学校 大澤 志織

私がこの4月に朝日中学校に赴任してから、半年が過ぎました。とは言え、その1年前までの3年間、朝日中学校に勤務していたので、途中1年空いて、3年半が過ぎたこととなります。

1年ぶりに帰って来ると、当たり前ですが、周囲の景色はほとんど変わらず（変わったことは新幹線が走っていることくらいでしょうか）、職員の中の先生方は多少変わっていましたが、全体の雰囲気はそのまま、1週間ほど休んで出てきたような錯覚に陥りました。

すっかりその気持ちでいたのですが、新学期に入り、当時1年生だった新3年生の成長した姿を見て、心底驚きました。「中学生というのは、1年間でこんなに変わるものなのだな」と、しみじみ感じました。外見だけでなく、内面的にも学校のリーダーとして後輩たちを引っ張っている姿を見て、とても嬉しかったです。

また、あい変わらず給食もおいしくて、今から冬の「たら汁給食」がとても楽しみです。今年度は2年生の担任ですが、「14歳の挑戦」も終わり、今は来るべき合唱コンクールに向けて、クラスが一丸となろうとしています。これからもたくさんの「嬉しい」出来事を、朝日中学校の皆さんと共有できるように、頑張りたいと思います。



## 「生徒の努力を結果に」

朝日中学校 塩谷 沙織

「おはようございます。」私の一日は体育館で生徒と交わす挨拶から始まります。私は男子バスケットボール部の顧問をしています。挨拶・返事の大切さや、一生懸命に取り組む姿勢を伝えています。朝日中学校の生徒は挨拶が素晴らしく、きびきびと行動ができます。この挨拶から始まる一日の喜びや、仲間の大切さを実感して欲しいです。バスケットボール部の顧問として、生徒と関わり、一緒に汗を流しながら自分が培った技術や経験を伝えています。

特に生徒には、3つのことを伝えています。「感謝の気持ちを大切に」「全力で取り組む」「自分の限界を自分で決めない」です。私の期待以上に、生徒は精一杯全力で取り組んでいます。新川地区新人大会では、走り込みの成果が表れ、スピーディーな展開をすることができ、3位になり、県選抜大会出場を果たすことができました。ボールに果敢に飛びつき、相手のボールを奪いシュートに繋げる姿に鳥肌が立ちました。また、シュートを決めた時のキラキラした笑顔は忘れられません。4月とは比べものにならない頼もしい姿に嬉しく、共に喜びを感じることができました。

このような喜びを糧に、生徒の努力を結果に繋がられるよう、私自身も日々努力していきたいと思っています。



## 「自然豊かな朝日町で育った子供と共に」 あさひ野小学校 飯田 育美

教師になって6年目。朝日町での勤務が決まり、自分が生まれ育った朝日町で働けることをとてもうれしく思いました。4月は間近に迫る緑の山、青い空、ピンクの桜を見ながら毎日通勤していると、心が穏やかになり、景色を見ながらのんびりとした時間を過ごすことができ、改めて朝日町のよさを感じる毎日を過ごしました。

自然豊かな朝日町でのびのびと育っているあさひ野小学校の子供たちは、やりたいことを何でも思いっきりやる子供たちです。休み時間や放課後にドッジボールやビーチボールをして一緒に遊ぶことがあります。負けず嫌いな私は、勝負事になると、誰が相手でも本気で戦います。子供たちにはいつも「先生、大人げない。」と言われる。しかし、子供たちは、負けじと本気で立ち向かってきてくれます。お互い真剣に遊んだり真剣に学習したりすることで、本気で悔しがったり大笑いをしたりと心の底から楽しむことができます。教師が真剣に子供と向き合うことで、子供はその何倍も努力をして教師に伝えようとしてくれることに喜びを感じています。

これからも先生方や地域の方にいろいろなことを教えていただきながら、子供たち一人一人のよさを引き出し、いけるように全力で取り組んでいきます。



# 学び続ける教師であるために

～夏の研修の概要・感想

## 朝日町とやま型学力向上プログラム研修会

参加者 45名

日時 8月3日(月) 場所 さみさと小学校特活室

講師 富山大学准教授 高橋 純 先生

演題 「日常授業の改善とICT活用」

- 前時の振り返り等でフラッシュ教材を活用したい。(中学校・担任)
- 子供の実態に合ったねらいを外さない、ICT活用をすることが大切だと思った。(小学校・担任)
- 「わかったつもりを「よりわかる」に変える手立て、「問う」手立てがわかった。(小学校・担任)



ワークショップで説明される高橋先生



作成したフラッシュ型教材の発表



グループでのフラッシュ型教材の作成

## 情報教育研修会 (授業におけるICT機器の活用) 参加者 35名

日時 8月5日(水) 場所 さみさと小学校 講師 朝日町情報教育研究調査員

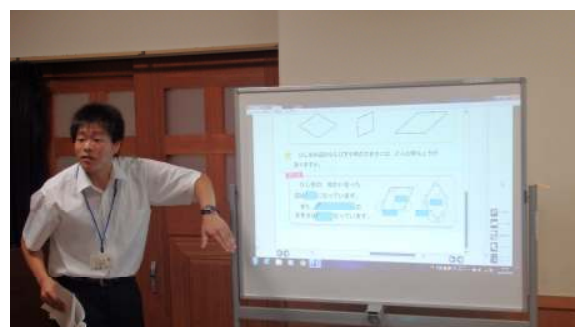
- デジタル教材の魅力をたくさん教えていただいた。短い時間で充実した内容の研修ができてよかった。(小学校)
- 学び合いの授業作りにもICTの有効な活用の仕方があることがわかった。(小学校)
- iPadでデータを共有できるアプリは将来的に有効に活用できそうだと感じた。(小学校)



ICTの活用について話す木下教諭



iPadの活用を学ぶ



調査員によるデジタル教科書を使った実演

## 第1回朝日町学校教育運営研修会

参加者 40名

日時 8月6日(木) 場所 朝日町図書館

講師 (株)四十物昆布社長 四十物 直之 先生

演題 「先人・先輩に学ぶ」



教育の大切さを訴えられる四十物先生

- 日本の伝統や文化を大切にしなければならないというところは共感できた。「自分の足で調べる」姿勢を学びたい。  
(小学校・担任)
- 話しぶりの自信の裏にいろいろな人との関わりがあろうことが想像できた。私自身も「自信を持って話す」ための経験を積んでいきたいと思った。  
(小学校・担任)
- 日々の生活に追われ、日本人として最も大切な心、精神を伝えられていない自分に気づいた。先人のすばらしさを今一度自分でも学び、子供たちに生き方を伝えていきたい。  
(小学校・担任)
- 教員はなかなか持てない広い視点から社会の事象に対する考えを話していただき、教員も社会人としてしっかりすべきだと思った。  
(中学校・無担任)
- 日本の歴史に精通しておられ、知らなかったことがたくさん知れて嬉しかった。情熱的な語り口に吸い込まれ、あっという間だった。日本人として忘れてはいけないことをたくさん教えていただいた。  
(小学校・担任)
- 熱い思いが伝わってきた。特に領土やさまざまな国際問題についてもよくわかった。  
(中学校・無担任)

## 授業力アップ研修会〈理科実験〉

参加者 24名

日時 8月7日(金) 場所 さみさと小学校理科室

講師 富山県総合教育センター科学情報部の先生5名

実験1 「水のすがたと温度」

実験2 「月の満ち欠け」



- 子供の気持ちになったように、とてもおもしろく、興味深い実験だった。理科のおもしろさを再確認した。100℃で沸騰する実験方法は、ぜひ取り入れたいと思う。  
(小学校・担任)
- 日頃できない実験ができた。子供を指導するには子供以上に知っていかなくてはならないので、とてもありがたかった。非常に冷たい物質に触れると、周囲にある酸素や、窒素、水蒸気が冷やされるということはとても納得できた。  
(小学校・担任)
- 目に見える、見て分かる実験の大切さを感じた。「おもしろい」、これが理科好きな子を育てることにつながると思った。月は苦手だと思っていたが、楽しくわかりやすく学べた。  
(小学校・担任)
- 子供たちが苦手な月の満ち欠けの学習が楽しく教えられるような感じになった。身近なもので簡単に作って考えるのがよいと思った。  
(小学校・担任)

## 第2回朝日町学校教育運営研修会

参加者30名

日時 8月12日(水) 場所 朝日町図書館

講師 (公財)日本中体連バレーボール強化委員長 竹村 昭浩 先生

演題 「人間力を高める」



リーダー性の育成の大切さを話される竹村先生

- 教師という仕事の中で子供たちの人間力を高めるためのヒントがたくさんあった。「ゴールをイメージすること」「自立的に活動する力の付けさせ方」「リーダー性の育成とフォローシップの大切さ」などについて話が参考になった。(中学校・担任)
- 最後にあった「学ぶことをやめたら教えることができなくなる」という言葉も印象的で、今後も学び続ける教師でありたいと思った。(中学校・担任)
- ゴールイメージを明確にし、子供と共有することが主体的な活動につながる事が分かった。学級活動や委員会活動にも生かせると思った。(小学校・担任)
- 1年生でも3年生にアドバイスできるように、体育学習において、体育に苦手な子でも得意な子にアドバイスできるように授業を組み立てていかなければならないと思った。(小学校・担任)
- リーダーを育てるのではなく、どの子にも大なり小なりリーダー性があるので、さらにその先を伸ばしていくことを教えていただいた。個を育て 集団の質を高める指導が参考になった。(小学校・担任)
- 子供たちに正面から向き合ってくれた先生の熱い思いを聞いて感動した。子供たちに「ゴールを意識させること」、「できない子が嫌にならない教師の教材の工夫」等大切なことを学んだ。(小学校・担任)

## 郷土を学ぶ研修会〈現地学習会〉

参加者19名

日時 8月18日(火) 場所 宮崎城跡 舟川新

講師 木曾義伸・巴と宮崎太郎あさひ塾 蓬澤 正二先生

チュリストやまざき 代表 山崎 修二先生

宮崎城跡



田んぼアートの前



- 田んぼアートは圧巻だった。それにかかる山崎さんの情熱はすごい。子供たちにぜひ知らせたい。「宮崎太郎」はまだ奥が深そうだ。もっと聞きたかった。どちらもすてきな講師でとてもわかりやすくよかった。
- 「宮崎太郎」はこの年になるまで知らなかった史実と昔の人の野望を知りおもしろかった。チュリストさんは小さな農家でありながらオランダとのつながりがあり、また政治情勢や新たな取り組みについても知ることができた。頑張っておられる姿に元気をもらった。
- 毎回新たな朝日町の魅力に気づかされる。今回は歴史の講習から田んぼアートの新しい取り組みまで、とても興味深いメニューだったのでよかった。子供たちにぜひ伝えたい。
- 現地に行ってみて、本や資料で勉強するよりも詳しく知ることができた。次は子供たちと一緒に行って学習をしたい。



いじめと闘う兵法書  
『いじめを見抜き闘うノウハウ』

田村治男/TOSS銀河Ts 著

今年の7月に岩手県の中学2年生がいじめが原因で自殺した。平成23年滋賀県大津市で起きたいじめによる中学2年生の自殺を受けて、平成25年に「いじめ防止対策推進法」が施行され、学校の責任が明確にされたにも関わらずである。

著者は「いじめは教室に必ず起こる。いじめを解決するには闘うしかない。教師は子供を見くびって、油断してはならない。子供が準備している以上、用意周到な戦略を立て、戦術を練らなければならない」と教師にいじめという勝負に挑む覚悟を求めている。単なる理論書ではなく、「法則化」の本らしく「情報の収集方法」をはじめとして、いじめに対する指導法が微に入り細にわたり、述べられている。

いじめの対処の仕方を学ぶ指導書というよりも兵法書として、若い教師のみならず、生徒指導部がいじめに対する指導方針を明確に示すためにも、必読の書である。

※「いじめ」と何かを考えるには国立教育政策研究所編『いじめに備える基礎知識』がよい。

※『総合教育技術』10月号では「岩手中2自殺事件の教訓」を特集として組んでいる。



現場で今起きているトラブル・課題の解決法  
『プロ教師の「とっておき」対応術』

永松 靖典・坂田 英昭 編著

本書は小中高の学校現場で起きる、考え得る全てと言っていいトラブル・課題にどう対応するかが書かれたものである。「教員としての心得や服務」の対応術から始まり「学級経営」「授業指導」「地域・保護者への対応」に大きく分けて、さまざまな課題の事例に対して「まずい対応」と「おススメの対応」が書かれている。

「事件は会議室で起きてるんじゃない、現場で起きているんだ」という映画の名台詞があったが、現場の第一線で悩み、苦渋の中から方策を生みだし、実践を重ねたプロ教師たちの生の声を集めたものである。学校現場で毎日のように起きる課題に対する疑問や悩みに対する答えやヒントが必ず見つかると思う。

※ 姉妹編「プロ校長の『とっておき』対応術」



学級に早くルールを定着させシステム化しよう！  
『必ず成功する「学級開き」魔法の90日間システム』

堀 裕嗣 著

本書は中学校の学級担任向けに書かれた初めての「学級開き」の本である。著者が提唱した「3・7・30・90の法則」に則って、1学年主任として実践した学級・学年経営の事実が具体的にかつその背景にある思想・考えも含めてことこまかに書かれている。

著者は学級で「全員がルールを知っている状態」がないから、少しずつ崩れていき、果ては学級経営が失敗するといひ、早くルールを定着させ、システム化する必要があると説く。「職員室に共同性がない限り、学級経営も学年経営も成り立ちません」と言い、「同一歩調の原則」＝「職員室のチームワーク」が指導の定着、学級・学年経営が成功するために必要不可欠な要素であるとしている。

学級のシステム化だけでなく、生徒指導から授業のシステム化まで、実践に基づいて書かれているので、学年の始まりだけでなく、半年経ったちょうど今の時期にも学級・学年経営の成果を振り返り、必要があれば方針を見直す指針となる一冊である。

※『学級経営10の原理・100の原則』『生徒指導10の原理・100の原則』も併せて読むとよくわかる。

**教員のメンタルヘルス実態と予防・対処  
『教師の心が折れるとき』**  
臨床心理士 井上 麻紀 著



公立校教師の1ヶ月の残業時間が厚労省の定める過労死ライン（月100時間の残業など）に近く、常態化している。それに伴って仕事のストレス度についても「仕事量の問題」と感じる教員が60.8%と一般企業労働者と比べて倍近くになっている。一方、相談できる相手に「上司・同僚」を選んだ教員は14.1%と一般企業労働者の4分の1にも満たない。さらに近年増加している「保護者対応」の困難さがダウンする教員の増加につながっている。筆者は学年・学校全体で同じ方針で助けたり、話したりする文化が必要であると訴える。

※巻末の「保護者対応のポイント」はすぐ使える。

**指導者の「指導者」が教える  
先生の力を最大限に引き出すメソッド**  
コーチングディレクター 中竹 竜二 著

教師の力を最大限に引き出す方法論を述べている。「いい先生の定義」は「自ら考え、課題を解決し成長し続ける先生」とし、「先生が成長すれば子供も成長する」と強調する。さらに「何をどう成長させればよいか」を「自己診断シート」を使い、具体化する方法をあげている。

**子供と保護者の心に届く  
『教師のための「話す」技術』**  
永田 美奈子 著

本書は学級で起こりうるあらゆる事例に対して子供と保護者への言葉かけの方法が、イラスト入りでよい例と悪い例が並列されている。

**家庭や学校で取り組む予防教育と治療法  
『ネット依存から子供を守る本』**  
キム・ティップ・フランク 著

他の依存症と異なり、治療可能な「ネット依存症」に対処できるように、実態と予防法、見分け方、指導法、治療法をまとめたハンドブック。

※「契約書」「ネット教育のカリキュラム」は必見

**学校にしかできない  
『不登校支援と未然防止』**  
小林 正幸 監修

「不登校減少プロジェクト」に取り組み、欠席日数を30%減らした監修者が「個別支援シート」を用いた支援の方法を紹介する。類型別・事例別の支援の実際は、今すぐに使える。

**できる先生は実はやっている  
『学級づくり7つの習慣』**  
森川 正樹 著

子供や同僚にとって、魅力あふれる先生になるための「よい習慣作り」の方法や職人技が、体系的に書かれている一冊。

※筆者の『教師のすごい会話術』も必読

**間違った生徒指導が荒れる学校を作る  
『荒れには必ずルールがある』**  
生徒指導コンサルタント 吉田 順 著

「必ず」ということのない生徒指導の世界で荒れから立ち直った学校から学び、共通することを導き出したルールが載っている。まず大切なのは「荒れ」ないことなので、今すぐ読んでほしい。

**☆教育雑誌から**



『総合教育技術』10月号では「教育問題の最先端を掘り下げる」と題して「アクティブ・ラーニングの焦点」「岩手中2いじめ自殺事件の教訓」「組み体操の是非を考える」を特集している。



『月刊生徒指導』9月号では「日常的問題行動への対応」と題して特集を組んでいる。多くなってきている「叱られるスキル」のない子供への対応や服装・頭髪指導等日常的な指導、中間層への指導の在り方が書かれてある。

**編集後記**

今年の夏も研修がたくさん行われましたが、研修後の感想には掲載したように満足感があるものが多かったように思います。ただ実際に指導力の向上につながっているかは今後検証すべき課題だと思います。また、忙しくてなかなか読書する時間がとれませんが、本を読んで得た知識・気づきを子供たちに還元してほしいと思い、いくつか紹介しました。

**発行：朝日町教育センター**

〒939-0743

富山県下新川郡朝日町道下1053-1

TEL (0765)83-0279

FAX (0765)83-0279

Webサイト <http://www.asahi-c.tym.ed.jp/>

